

SCENE 101

CREATING
CULTURAL SPACE
FOR GATHERINGS



SPACE QUEST

01

甲南女子大学

KONAN WOMEN'S UNIVERSITY

創立100周年から次の100年へ。未来への実践力を培う教育を推進。



国際英語学科コモンルーム「e-space」

イス、ハイチェア、丸テーブル、ハイカウンターテーブル、ソファ、書架、ブックタワー、テレビ台、人工樹木、ポストカード入れ、AV機器、内装改修





甲南女子大学 学長
森田 勝昭 氏
Morita Katsuaki

2020年4月、甲南女子大学に国際学部が開設され、2つの学科による新たなスタートを切ります。これに伴い、学科の活動拠点となる2つの「コモンルーム」をリニューアルし、新コモンルームが誕生しました。

「未来への実践力」を養成する場として期待される新コモンルームの役割について、コモンルーム開設の発案者でもある学長の森田勝昭氏にお話をうかがいました。

潜在化していた教育の力を 新たな力に変える新学部

本学の歴史は、1920年に創立した「甲南高等女学校」に遡ります。当時は大正デモクラシーにより民主主義、自由主義的な風潮が社会に広がっていた時代です。甲南高等女学校にも、日本に新たな女子教育を芽吹かせようという、進取の気性に富んだ創立者の強い思いがあったことは想像に難くありません。建学の精神である「まことの人間をつくる」は、1964年に開学した本学においても不変の理念として受け継がれています。

グローバル化が進む現代社会には、AI等新テクノロジーの台頭という巨大な変化の波が押し寄せていますが、そこで改めて問われるのが「まことの人間」です。人がロボットに取って代わられるといわれる時代だからこそ、新たな人間の力を見出し育てることが本学の役割であり、使命であるという思いに至りました。

その実践の一つが、2020年、設置母体である「学校法人甲南女子学園」が100周年を迎えるのを機に開設する「国際学部」です。2つの学科、国際英語学科・多文化コミュニケーション学科は、従来文学部・英語文化学科、文学部・多文化コミュニケーション学科として本学を支えてきた教育資源です。これを国際学部へ改組することで、「グローバルズム」というキーワードのもと、潜在化していた教育の力が顕在化し、再活性化できるのではないかと考えます。従来あった「コモンルーム」をリニューアルしたのも、国際学部として存在感を発揮できる教育の実践につなげるためです。

多文化コミュニケーション学科コモンルーム「D-Commons」

イス: デューン、イス、ビッグテーブル、丸テーブル、ローテーブル、対面カウンター、ソファ、書架、書棚、書庫、AV機器、内装改修



セミフォーマルな「コモングルーム」が、キャンパスの魅力を創る

学科独自の活動が盛んな本学では、学科の活動拠点として各学科ごとに多目的スペース「コモングルーム」を設置しており、学生のキャンパスライフを側面からサポートする重要な空間に位置付けています。

遡ること2001年、文学部に「多文化共生学科」が開設されました。まだダイバーシティという言葉が聞かれる何年も前のことです。この先駆的な学科にふさわしい学びの空間として、私が提案したのが「コモングルーム」でした。当時、学生は大学に来ると教室に直行し、授業が終われば帰宅する。学生にとって学びの場とは、教室に限られてしまっているイメージでした。しかし、イギリスの伝統あるカレッジに行くと、キャンパスそのものに独特な雰囲気があり、教室での授業が終わっても大学内で友人と議論をしたり、一人で読書をしたり、コーヒーを飲みながらおしゃべりを楽しんだりします。それが「コモングルーム」と呼ばれる空間でした。教室がフォーマルなら、コモングルームはセミフォーマルな空間です。少し緊張しリラックスもできる。そんな空間があるからこそ、カレッジ全体が多様な学びの場になると得心したことを思い出し、多文化共生学科という新たな学びの場にごそコモングルームが必要だと思ったのです。

こうして既設の部屋を職員で整理してできたコモングルームは、すりガラスを透明なガラスに変え、カーテンもない廊下から丸見えの部屋でした。周囲には不思議がられました。人の目、人の存在が意識できるということはとても大切です。それが学びの刺激となり、人とつながりコミュニケーションが生まれるきっかけとなるからです。

また、コモングルームを使うのは学生だけではなく、教員も利用するし、学生と教員で共同利用することもあります。本学では教員を学生の“伴走者”と呼び、協働による共感や励ましで、学生の成長を促します。コモングルームは“伴走”の実践

の場でもあるのです。

国際学部の開設により5学部・11学科編成となる本学ですが、現在各学科はそれぞれのコモングルームを工夫して使い勝手のよい空間とし、独自性を発揮しています。今回の改組により誕生した国際英語学科と多文化コミュニケーション学科については、改組前のコモングルーム「e-space」と「D-commons」を全面リニューアルしました。それぞれのゾーニングや家具選びについては全て学科の教員に委ねましたが、3つの条件を想定していました。1つは壁で空間を区切らず誰とも自由にコミュニケーションができるということ。1つは相反するようですが、集中できる空間も設けること。そして、もう1つが快適な空間、居心地の良い空間であるということです。

こうしてできた2つのコモングルームは、いずれも私の考えていた3つの条件を満たし、採光性に優れているうえ、清潔感のある内装と、カラフルな家具が学生のモチベーションを高めてくれると期待できます。



スピーキング・スカイプ個人ブース／海外提携先とスカイプをつないで、ネイティブスピーカーと1対1で話すトレーニングができる。ハイスツール、内装改修

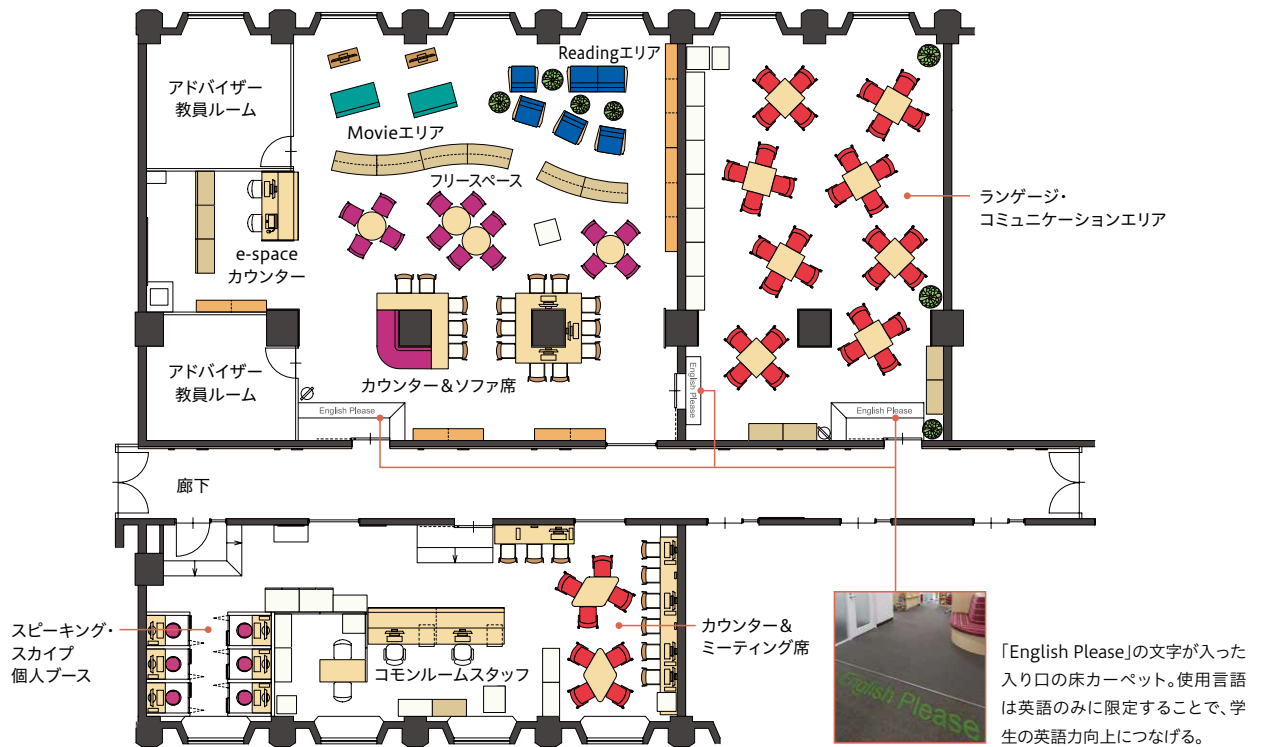


[左]国際英語学科・多文化コミュニケーション学科共有アクティブラーニングエリア／可動式の机とイスでレイアウトが自在にでき、プロジェクターと壁面ホワイトボードの設置により、プレゼンテーションやグループワークに対応するアクティブラーニング環境を整備。イス:ナビット、テーブル:セリオ、レクチャー台、ホワイトボード、壁面ホワイトボード、AV機器 [右]〈国際英語学科コモングルーム「e-space」〉カウンター&ミーティング席/イス:ティエポ、テーブル、ハイチェア、ハイカウンター (すべて内装改修)



国際英語学科コモンルーム「e-space」

常駐する専任アドバイザー教員のもと、授業と連携したサポートを行っており、日々の予習・復習から留学生との交流、英語力を高めるイベントなど、他学科の学生も含み、学生が自由に英語を学び、交流する場となっています。



〈国際英語学科コモンルーム「e-space」〉[左上・上中]カウンター＆ソファ席／ハイチェア、ハイカウンター、ソファ、ブックタワー、ポストカード入れ [上右]フリースペース／イス、丸テーブル [下左]Movie・Readingエリア／中庭に向けて設置されたソファの前には大型テレビが設置され、字幕の英語が出る作品をヘッドフォンで鑑賞することができる。ソファ、書架、テレビ台、人工樹木、AV機器 [下中]ランゲージコミュニケーションエリア／可動式の机とイス、プロジェクターと壁面ホワイトボードの設置により、アクティブラーニングに活用できるコミュニケーションスペース。イス：ティーポ、テーブル：DTN、レクチャー台、収納棚、人工樹木、AV機器、壁面ホワイトボード [下右]廊下／ウッドパネル、フェイクグリーン (すべて内装改修)

サポートし合いながら共に進化できる、新時代のリーダーを育成

新設した「国際学部国際英語学科」は、グローバルビジネススキルを磨き「英語をキャリアに生かす国際人」の育成を目指す教育に重点が置かれます。また、ビジネススキルを実践的に学ぶ人気の科目だった「ANAエアラインプログラム」は強化して継続します。これは常駐するANA総合研究所スタッフが授業やアドバイスを担当するとともに、職場見学やインターンシップの学外活動を組み合わせた、エアライン、ホスピタリティ業界でのキャリアを支援するプログラムであり、広くホスピタリティ産業全般で活躍する人材を輩出しています。

これに加え「国際英語学科」の新たな科目として「グローバル・ビジネスプログラム」を設け、貿易実務基礎・貿易実務の英語の授業を通してグローバルビジネスの知識とスキルを磨き、貿易実務の資格取得を目指します。また、これに対応して「English to Go」というオンライン英会話を取り入れたトレーニングの科目を設けました。その実践の場となるのが、リニューアルしたCOMMON ROOM「e-space」内に設けた「スピーキング・スカイプ個人ブース」です。ここを利用すれば、学生は授業で学んだことをオンラインによるネイティブとの1対1の会話を通して復習できます。

また、本学の英語プログラムの特長である、チューターがカウンセリングやグループ活動を通して学生個々の英語学習力を高める「英語チュータリング」や、少人数制の授業でハイレベルな英語力を養う「英語アドバンスコース」などはさらに充実させていきます。リニューアルした「e-space」によって学生と教員との距離はより近くなり、学生同士の交流やコミュニケーション、教員の“伴走”をサポートします。

次いで「多文化コミュニケーション学科」ですが、2001年に開設された「多文化共生学科」でも、アジア系コミュニティとの交流が活発な神戸という立地を生かした課外活動に取り組んできました。これをさらに体系化したのが、「グローバル・シティ

ズンシップ・プログラム(GCP)」です。地域特性を生かした多彩な体験型学習の機会を設け、実学を通じた課題発見・問題解決能力を養成します。COMMON ROOM「D-commons」では、元JICA(独立法人国際協力機構)のスタッフなど国際的な活動経験が豊富な専門スタッフが常駐し、学生のGCPに関する相談に対応するほか、ソファが置かれたリラックスコーナーや、グループワークができるコーナーなど、多彩な用途に対応するゾーニングがなされています。

また、授業でも「グローバル・イシューズ」という新たな科目を設け、国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」について学び、環境問題や人権、多文化共生といった地球規模の課題について考え実践します。これらの“生きた学び”では、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションが常に展開されますが、その準備や実施にも「D-commons」は欠かせない空間といえます。

国際学部の開設により、本学は学生に新たな成長ストーリーの提供を目指しています。

それは従来求められた強力なリーダーシップではなく、人の心に気付き、互いにサポートし合いながら進化できる新しいリーダー像につながります。それこそが、これからの国際社会で活躍できる新しい女性リーダー像であり、本学の教育が目指す人材像であると考えます。



甲南女子大学

所在地:兵庫県

施主:学校法人甲南女子学園



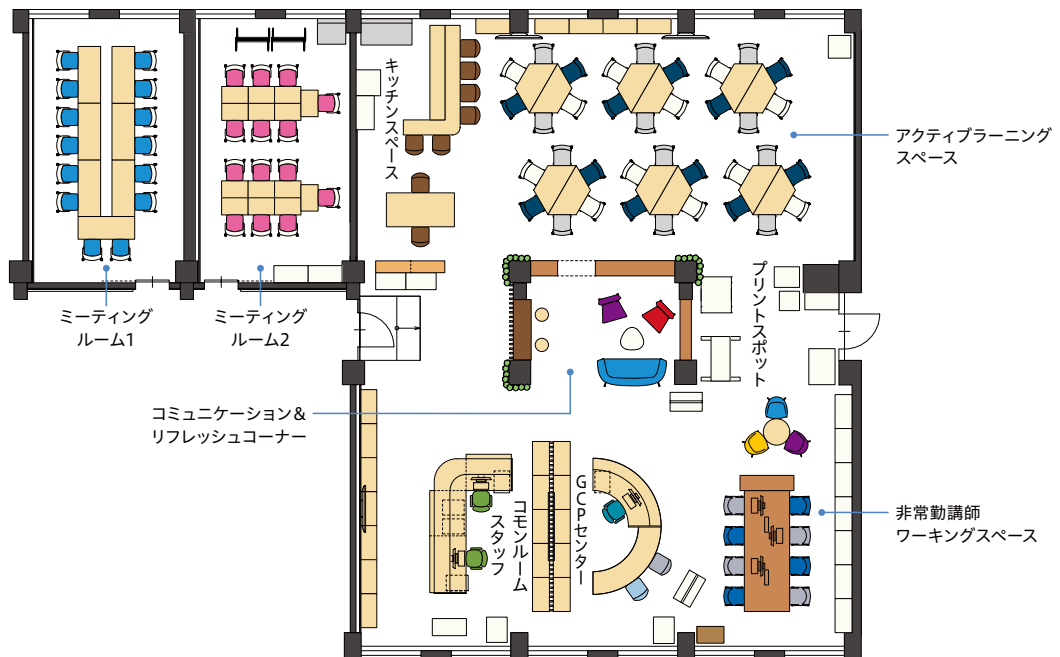
【左】ミーティングルーム1/イス:ティーポ特注品、テーブル:CTZ、壁面ホワイトボード、AV機器



【右】ミーティングルーム2/イス:ティーポ特注品、デスク:フリフト、ホワイトボード、壁面ホワイトボード、AV機器 (すべて内装改修)

多文化コミュニケーション学科共通ルーム 「D-commons」

Diversity (多様性)の頭文字の「D」を取って名付けられた共通ルームは、国内外の国際体験プログラムを支援する専門スタッフが常駐。留学生やネイティブの先生たちとの交流を通して、日常生活の中で多文化な学びを深めていく場となっています。



〈多文化コミュニケーション学科共通ルーム「D-commons」〉[上左]コミュニケーション&リフレッシュコーナー／ソファ、ローテーブル、ベンチ、書棚 [上中]非常勤講師ワーキングスペース／イス：デューン、イス、ビッグテーブル、丸テーブル、書架、書庫、コートハンガー [上右]GCPセンター／イス：プロ、対面カウンター、書庫、キャビネット、ホワイトボード [下左]キッチンスペース／キッチンスペースは、食を通じた異文化交流など独自のイベントにも活用できる。ハイチェア、ハイミーティングテーブル、ハイカウンター、書架 [下右]アクティブラーニングスペース／イス：ティーポ、テーブル：DT-15、書庫、壁面ホワイトボード、AV機器 (すべて内装改修)